

マチク・ラブキドゥンマの著作について

西 岡 祖 秀

1. 序

マチク・ラブキドゥンマ Ma cig Lab kyi sgron ma は、チベット仏教後伝期 (phyi dar) の初頭にシチュ派 (Zhi byed pa) の一支派とされるチュー派 (gCod lugs) を開創した 11 世紀の女性成就者である¹⁾。チュー派に関する解説としては、G. トウッチによる *The Religions of Tibet* 中のもの²⁾ が最も優れていると考えられるが、そこで依用されている資料はほとんどがチューキ・センゲ (19 世紀末-20 世紀初) の著作である。したがって本稿ではよりオリジナルなマチク自身による著作に関して、近年の研究³⁾ を参照しつつ、チベット仏教史書の中にその書名を求めてそれらの出版事情を解説すると共に、内容についても関説したい。

2. チベット仏教史書における記述

マチクの著作に言及しているものとして、以下の 3 書を挙げることができる。

- (1) スムパ・ケンポ Sum pa mkhan po Ye shes dpal 'byor (1704-1788 年) の『パクサムジュンサン』⁴⁾

de'i gzhung ni Ma gcig gis mdzad pa'i bKa' tshom skor sogs lhad med dang/ de'i khong Ārya de ba che bas mdzad zer yang phyi mas mdzad dam snyam zhing gcod la shin tu nye bar mkho ba'i Sher phyin tshigs bcad chen mo zhes pa yod do//

その(断境説の)根本書 [に關していえば], マチクが著された『本説カーツォム』の類など混じりもののない [真正な] ものと, またその根本 [として], 大アーリヤデーヴァが著されたといわれるが, 後代の人々が著されたとも思われる, 断 [境説] に關して必要不可欠な『般若波羅蜜多大頌』⁵⁾ といわれるものがある。

- (2) コントウル・ユンテン・ギャンツォ Kong sprul Yon tan rgya mtsho (1813-1899 年) の『遍満所知』⁶⁾

sher phyin gyi dgongs don Ma cig nyid kyi dgongs nyams las 'khrungs pa'i rtogs chos gCod yul zhes yongs su grags pa'i lam srol rgya chen po phyte te gzhung gdams ngag bsam gyi mi khyab pa

mdzad pa las/ bKa' tshom chen mo/ Yang tshom le'u nyer lnga pa/ thun mong thun min khyad par
gyi Le'u yan lag brgyad gsum nyer bzi pa sogs da lta'ang rgyun bzhugs pa 'di ni Mo gcod ces bya
ba yin te/

般若波羅蜜多の真義でマチクご自身の御心から生じた悟りの法は断境として遍く知られている〔が、その〕広大な流儀を開創して、不可思議な教誡の根本書を著された。そのうち『大本説カーツォム・チェンモ』と『再説ヤンツォム二十五〔問答〕』と一般と特別と殊勝の三種の『八章』〔合わせて〕24章などが、現在も伝承されており、これが「女の断〔境説〕」⁷⁾といわれるものであり、

(3) チューキ・センゲ Chos kyi seng ge (19世紀末-20世紀初) の『シチェ派仏教史』⁸⁾

shes rab kyi pha rol tu phyin pa'i zab don bdud kyi gcod yul gyi gzhung bKa' tshoms chen mo zhes
bya ba dang/ de'i man ngag Yang tshoms chen mo dang Nying tshoms chen mo bcas Ma cig nyid
kyis mdzad pa/

般若波羅蜜多の深遠な真義すなわち魔の断境〔説〕の根本書である『大本説カーツォム・チェンモ』といわれるものと、その秘訣である『大再説ヤンツォム・チェンモ』と『大再々説ニンツォム・チェンモ』はマチクご自身が著された。

以上の記述から、マチクの真作として『パクサムジュンサン』にいう「『本説カーツォム』の類」すなわち『本説カーツォム』、『再説ヤンツォム』、『再々説ニンツォム』の3書⁹⁾と、さらに『八章』があったことが知られる。

3. 主要4著作の出版

これら4書はすべて「無宗派運動」で知られるコントウル・ユンテン・ギャンツォの『教誡蔵』のチュー派文献中に収載されている。本書は各宗派の祖師たちの教誡を集成したものであり、シチェ派とチュー派に関する文献はデリー出版本(全12巻)では一括して第9巻¹⁰⁾に、パロ出版本(全18巻)ではそれぞれ第13巻と第14巻¹¹⁾に収録されている。また全25文献から成る『教誡蔵』のチュー派文献を、11文献に再編集したと考えられる『チュー派叢書』が河口慧海師により東洋文庫に将来されている¹²⁾。多少の字句の相違があるものの本文は細注の部分を含めて『教誡蔵』と同文である。以下にこれら4文献の首題と奥書(尾題を含む)を示す。

(1) 『本説』(首題 *Shes rab kyi pha rol tu phyin pa zab mo gcod kyi man ngag gi gzhung bka' tshoms chen mo*. DDD, pp.456-466; DDP, pp.7-17; TB, No.50-757, Vol.Kha, fols.6b1-15a4).

〔奥書〕 *Shes rab kyi pha rol tu phyin pa'i man ngag gcod kyi bka' tshoms chen mo zhes bya ba Ma gcig ye shes mkha' 'gro Lab sgron mas mdzad pa rdzogs so// gzhung 'di nyid Gra pa hag ston gyi*

(70) マチク・ラプキドゥンマの著作について (西 岡)

dus nyan bshad byed pa brgyad cu rtsam byung zer la/ snga dus kyi 'grel pa *mDo sdud pa* dang
sbyar ba zhig kyang snang zhing/ chos kyi rje Rang byung rdo rjes *Sa bcad dang 'grel pas* mtshon
phyis kyi gzhung 'grel mang ngo// 'di dang bram ze Ārya de bas mdzad pa'i gzhung *Yid bzhin nor*
bu gnyis gcod yul gyi gdams pa thams cad kyi gzhi lta bur snang ngo//

…まさにこの根本書はタパ・ハクトゥンの時代に聴聞・講義が行われたもので、〔それは〕80 回程にも上るといわれる。そして初期の注釈は『仏母宝徳藏般若経』〔の内容〕と相応したもののように、法主ランジュン・ドルジェによる『〔本説〕科文注釈』を始めとして後代の注釈も多いのである。本書とバラモンのアーリヤデーヴァが著された根本書『如意宝』の二書がすべての断境〔説〕の教誡の基本のようである。

以上のように、本書はマチクが繰り返し講説したもので、アーリヤデーヴァの『如意宝』¹³⁾とともに断境説の二大根本書とされている。またロントウル・ラマ(1719–1805 年)の『聴聞録』によれば¹⁴⁾、本書はマチクの女の侍者であるヨクモ *g-Yog mo* の要請により著作されたものであるとされる。なお、タパ・ハクトゥンはマチクが直接に教誡を伝授した直弟子の一人である¹⁵⁾。そして本書に対する注釈として有名なのがカルマ派のランジュン・ドルジェ(1284–1339 年)による『本説科文注釈』 *gCod bka' tshoms chen mo'i sa bcad* であり、『教誡藏』と『チュー派叢書』にも収載されている¹⁶⁾。その注釈の特徴は、空の境地を獲得するための修行法として、『仏母宝徳藏般若経』に説かれる「四種の因により善巧と勇猛とを具えた菩薩は、四魔により危害を受け難く動揺させられない。」の一節¹⁷⁾に基づき、四魔(有碍の魔、無碍の魔、喜楽の魔、執着の魔)の克服を中心に説くことである。

(2) 『再説』(首題 *Shes rab kyi pha rol tu phyin pa'i man ngag yang tshom zhus lan ma*. DDD, pp.547–559; DDP, pp.101–113; TB, No.50-762, Vol.Ja, fols. 1a1–10b4)。

〔奥書〕 *zhus lan gyi gdams pa Yang tshoms nyi shu rtsa lnga pa zhes bya ba iti//*

問答の教誡である『再説ヤンツォム二十五〔問答〕』といわれるものは以上のとおりである。

本書は首題と奥書からも解るように、マチクとその弟子とによってかわされた二十五条から成る問答集である。本文中に弟子の名は記されていないがロントウル・ラマの『聴聞録』によれば、マチクの息子のドゥッペ *Grub be* であるとされる¹⁸⁾。その内容は第一問の「人身を得ることはいかに稀なることか」に始まり、第二十五問の「マチク〔様〕が無常となる時には〔その〕想念はいかに離れ去るか」で終わるが¹⁹⁾、人の一生において断境説による修行法が如何なる意義を有するかが様々に説かれている。なお、本書の後に十七条から成る『ドルジェ・ル

ルパ〔との〕問答集』 *Zhus lan rdo rje rol pa* (尾題のみ, DDD, pp.559-561; DDP, pp.113-115; TB, No.50-762, Vol.Ja, fols.10b4-12b3) が付載されている。

(3) 『再々説』 (首題 *Shes rab kyi pha rol tu phyin pa'i man ngag bdud kyi gcod yul las nying tshom*, DDD, pp.562-576; DDP, pp.116-130; TB, No.50-763, Vol.Nya, fols.12b4-24b4)。

[奥書] *Shes rab kyi pha rol tu phyin pa bdud kyi gcod yul las/ nying tshoms chos kyi rtsa ba zhes bya ba/ bka' shes rab kyi pha rol tu phyin pas dgongs pa grol ba sprul pa'i sku jo mo Lab kyi sgron mas gsung pa rdzogs so//*

…仏説である般若波羅蜜多により解脱した化身比丘尼のラブキドゥンマが説かれたもの終わる。

本書は第1章の「加行についての教誡」から、第5章の「見解〔により心を〕魔の行境にとられない教誡」までの全5章²⁰⁾から成り、修行の準備段階から悟りに至るまでを体系的に解説したものである。

(4) 『八章』

① 『一般の八章』 (*Thun mong gi le lag brgyad pa*, DDD, pp.576-586; DDP, pp.130-140; TB, No.50-764 (1), Vol.Ta, fols.24b4-32a3)。

② 『特別の八章』 (*Thun mong ma yin pa'i le'u lag brgyad pa*, DDD, pp.586-601; DDP, pp.140-155; TB, No.50-764 (2), Vol.Ta, fols.32a3-44a1)。

③ 『殊勝の八章』 (*Khyad par gyi le lag brgyad pa*, DDD, pp.601-610; DDP, pp.155-164; TB, No.50-764 (3) Vol.Ta, fols.44a1-51a6)。

[奥書] *Ma cig jo mo'i gdams ngag Pha rol tu phyin pa bdud kyi gcod yul las khyad par gyi le lag brgyad pa zhes bya ba iti//*

マチク・チョモの教誡である『智慧の完成すなわち魔の断境〔説〕のうち「殊勝の八章』といわれるものは以上のとおりである²¹⁾。

本書は上記のごとく3部24章から成り、東洋文庫蔵外の『チュー派叢書』ではTaの巻として編集・収録されている。先ず『一般の八章』は「〔心を〕はからなく真性に置く章」から「修習を行う奥義の章」までの8章²²⁾であり、断境説に関する一般的な概説である。次の『特別の八章』は「名称と意味の章」から「〔信心〕堅固ならば勝進を得る章」までの8章²³⁾であり、より細部にわたる詳細な解説である。最後の『殊勝の八章』は「帰依と発心による入門」から「修習の果を示す」までの8章²⁴⁾であり、加行から修習の成果までを段階的組織的に論述したものである。なお、本文中には記載されていないがロントウル・ラマの『聴聞録』によれば、本書はヌプモ・ナムカーペル sNub mo Nam mkha' dpal の要

(72) マチク・ラブキドゥンマの著作について (西 岡)

請に応じて著述されたものであるとされる²⁵⁾。

4. その他の著作

さてマチクの著作として、上記の4書以外に他の書名をも伝える3資料を以下に挙げておきたい。

(1) ナムカー・ギェルツェン Nam mkha' rgyal mtshan (12世紀)の『蘊施解説』では、マチクが以下の10書をインドにもたらしチベットの教法をインドにも広められたとする²⁶⁾。すなわち① *bKa' rtsom chen mo*, ② *Yang rtsom*, ③ *Nying rtsom*, ④ *gNad them*, ⑤ *Le'u lag*, ⑥ *Khong rgol*, ⑦ *gSang ba brda chos*, ⑧ *La bzlas skor gsum*²⁷⁾, ⑨ *gZhi lam du slong ba*, ⑩ *Khyad par gyi man ngag* である。

(2) ロントウル・ラマ Klong rdol bla ma Ngag dbang blo bzang (1719-1805年)の『聴聞録』では、自派で伝承している断境説の資料のうちマチクの著作は以下の7書であるとする²⁸⁾。すなわち① *bKa' tshoms chen mo*, ② *Yang tshoms nyer lnga pa*, ③ *Le lag brgyad ma*, ④ *gNad them kyi gdams ngag*, ⑤ *Khong khrol ma nyi shu*, ⑥ *gDams pa skye med tshig chod brda' chos*, ⑦ *La bzlo ba* である。

(3) ガワン・テンジン・ノルブ Ngag dbang bstan 'dzin nor bu (1867-1940年)の『断境説伝燈法師列伝』では、マチクが御心に生じた教法である以下の8書をインド語に翻訳してチベットの教法をインドに広められたとする²⁹⁾。すなわち① *bKa' tshom*, ② *Yang tshom*, ③ *Nying tshom*, ④ *Le lag*, ⑤ *gNad them*, ⑥ *gSang ba brda chos*, ⑦ *gZhi lam slong*, ⑧ *Khyad par gyi man ngag* である。

以上のように、これら3資料はほぼ全てがマチクの主要著作として『本説』、『再説』、『再々説』、『八章』(下線を施したもの)の順序で列举した後に、それ以外の書名を挙げている。これらを整理すると(1)(2)(3)に共通するのが *gNad them* と *gSang ba brda chos/gDams pa skye med tshig chod brda' chos* であり、(1)(2)に共通するのが *Khong rgol/Khon khrol* と *La bzlas skor gsum/La bzlo ba* であり、(1)(3)に共通するのが *gZhi lam du slong ba/gZhi lam slong* と *Khyad par gyi man ngag* であると考えられる³⁰⁾。これら6書はいずれも現存が確認されていないが、チュー派の歴史において初期の時代に編纂されたナムカー・ギェルツェンの『蘊施解説』に既にその書名が記載され、そのうちの数書は近代にまで伝えられていたことが判る。

5. 結

マチクの著作として『本説』、『再説』、『再々説』、『八章』の4書が確認され、『再々説』を除く3書はマチクが直弟子の要請に応じて著したものであるとも考えられる。今後はこれらの主要著作の詳細な研究をとおして初期の「断境説」の解明がなされると共に、更なる資料の確認が望まれる。

- 1) マチクの年代については、拙著『西藏仏教宗義研究・第二巻—トゥカン『一切宗義』シチェ派の章—』東洋文庫、1978年、p.3; 拙稿 (a)「断境説の綱要書『蘊施解説』について」『印度学仏教学研究』第59巻1号、2010年、pp.443-444 参照。
- 2) Giuseppe Tucci: *The Religions of Tibet*, Translated from the German and Italian by Geoffrey Samuel, University of California Press, California, 1980, pp.87-92 参照。
- 3) Carol Diane Savvas: *A Study of the Profound Path of gCod* (以下 SPC と略), UMI Dissertation Services, No.9108293, Michigan, 1991 参照。
- 4) Sarat Ch. Das: *PAG SAM JON SAN*, Part II, p.376, 1908, Calcutta; *Collected Works of Sum-pa-mkhan-po*, Vol.1., Śata-pitaka Series, Vol.100, New Delhi, 1975 p.476 (fol.238b3-4) 参照。
- 5) 拙稿 (b)「断境説の根本典籍について」『印度学仏教学研究』第28巻1号、1979年、pp.418-422 参照。
- 6) Lokesh Chandra: *Kontrul's Encyclopaedia of Indo-Tibetan Culture* (以下 KEI と略), Parts 1-3, Śata-pitaka Series, Vol.80, New Delhi, 1970, p.539 (Vol.om, fol.192b4-6), 参照。
- 7) 拙著 pp.5-6, 9-11, 35-36 参照。
- 8) Chos kyi seng ge: *Zhi byed dang gcod yul gyi chos 'byung rin po che'i phreng ba thar pa'i rgyan* (以下 SCR と略), 東洋文庫蔵外文献 (以下 TB と略) No.47-724, fols.68b6-69a1; *gCod kyi chos skor* (以下 CCK と略), Tibet House, pp.546-547 参照。
- 9) 拙著 p.17 では「bKa' tshom の類」, すなわち本稿にいう「『本説カーツォム』の類」を① *Le'u lag*, ② *bKa' tshom*, ③ *Yang tshom*, ④ *rNam bshad chen mo*, ⑤ *Zab don thugs snying* の5書であるとしたが、本稿のごとく① *bKa' tshoms*, ② *Yang tshoms*, ③ *Nying tshoms* の3書に訂正する。
- 10) 'Jam-mgon Kong-sprul Blo-gros-mtha'-yas: *gDams ngag mdzod*, Vol.9 (以下 DDD と略), Reproduced from a xylographic print from the Dpal-spuns blocks, N. Lungtok and N. Gyaltsan, Delhi, 1971.
- 11) ditto: *gDams ngag mdzod*, Vol.14 (以下 DDP と略), Edited from a set of the Dpal-spungs prints, H.H. Dingo Chhentse Rimpoche, Paro, 1979.
- 12) TB, No.50-756-766. 財団法人東洋文庫ホームページ「河口慧海将来チベット語蔵外文献」(<http://61.197.194.9/Database/KawaguchiTop.html>) 参照。この『チュー派叢書』は Ka の巻から Da の巻までの11巻から成り、各1巻に1文献を割り当てており全11文献が収載されている。ところで、チューキ・センゲは『シチェ派仏教史』の巻末において自派に伝承する文献の解説をおこなっている (SCR, fols.68b1-70a5) が、実に

(74) マチク・ラブキドゥンマの著作について (西 岡)

『チュー派叢書』中の9文献(ChaとDaの巻の文献を除く)が含まれている。このことから『チュー派叢書』は、チューキ・センゲもしくは同派の学者が『教誡蔵』を底本として再編集したものとも考えられる。

- 13) 『教誡蔵』では断境説の二大根本書として、アーリヤデーヴァの『般若波羅蜜多大頌』とマチクの『本説』とを収載しており、また『チュー派叢書』でも同2書をそれぞれ第1巻(Ka)と第2巻(Kha)として収めていることから、ここにいう『如意宝』とは『般若波羅蜜多大頌』の異称であると考えられる。
- 14) Klong rdol bla ma: *gSan yig thar pa'i them skas las mdo sngags kyi khrid kyi skor sogs gyi tho dang brgyud yig skor brgyad kyi phyi ma bzhi* (以下 STT と略), 東京大学所蔵チベット文献 No.232 (= 東北目録 No.6548B), Vol.Tsha, fol.13b5; *The Collected Works of Longdol Lama* (以下 CLL と略), Parts 1-2, Śata-piṭaka Series, Vol.100, New Delhi, 1973, p.1005; SPC, p.135, n.3 参照。
- 15) 'Gos lo tshā ba gZhon nu dpal: *Deb ther sngon po*, Vol.Pa (以下 DTN と略), TB, No.346A-2575, fol.3a6; G.N. Roerich: *The Blue Annals* (以下 BA と略), Calcutta, 1949, p.985 参照。
- 16) DDD, pp.502-527; DDP, pp.53-79; TB, No.50-760-761, 21fols (但し fols.10a-20b が欠)。
- 17) 拙書 pp.37, 50 (n.93); DTN, fol.1b4-6; BA, p.981 参照。
- 18) STT, fol.13b5; CLL, pp.1005-1006; SPC, p.135, n.3 参照。なお、ドゥブペについては、拙書 pp.36, 49-50 (n.89) 参照。
- 19) 二十五問は以下のとおりである (DDD による)。① mi lus thob pa ji ltar dkon, ② dam chos byed pa ji lar dkon, ③ sdig pa byed pa ji ltar lags, ④ dad pa'i yon tan ji ltar lags, ⑤ dad pa che ba brtson 'grus chung na ji ltar lags, ⑥ dad pa dang brtson 'grus 'dzom na ji lar lags, ⑦ chos thams cad kyi mchog tu gyur pa gang lags, ⑧ de nyams su blangs pa la yon tan ji lta bu lags, ⑨ dmigs med ngang la ji ltar bzhag/bdud ces bya ba ji lta bu, ⑩ bdud rnams zil gyis gnon na nyams su ji ltar blang, ⑪ bdud kyi rtog pa ji ltar 'joms/snyems kyi thag pa ji ltar bcad, ⑫ gnyan sar 'grim pa ji ltar lags, ⑬ lta ba'i blta tshul ji ltar lags, ⑭ gnyan sa 'grim pa'i dus su ni/sems nyid bzhag thabs ji ltar bzhag, ⑮ spyod pa'i spyad thabs ji ltar spyad, ⑯ gcod ces bya ba ji lta bu, ⑰ gzhan la byin rlabs ji ltar bgyid, ⑱ rang la na tsha byung na ji ltar bgyi, ⑲ gdams ngag 'debs pa lan res 'ong ngam mi 'ong, ⑳ mi min ye shes mkha' 'gro ma/sangs rgyas bya ba ji ltar lags/de ru 'gro lugs ji ltar 'gro, ㉑ mi blta mi bsgom mi spyod mi bsgrub bam, ㉒ 'o na sangs rgyas la gzhan don nam yon tan ji 'byung ngam, ㉓ rang la sangs rgyas kyi byin rlabs 'byung bar bgyi na ji ltar bgyi, ㉔ gcod 'di mi gzhan la spel lam mi spel, ㉕ Ma gcig (TB は cig) mi rtag 'gyur dus su/dgongs pa ji ltar gshegs。
- 20) 章名は以下のとおりである (DDD と TB に異同無し)。① sngon du 'gro ba'i gdams ngag, ② sems ngos bzung ba'i gdams ngag, ③ byin rlabs lus sems phral ba'i gdams ngag, ④ sgom pa gnas lugs la bzhag pa, ⑤ lta ba bdud kyi spyod yul du ma shor ba。
- 21) 『一般の八章』と『特別の八章』の末尾にはそれぞれ上記の書名を記すのみで、『殊勝の八章』の末尾にこの奥書が付されている。
- 22) 章名は以下のとおりである (DDD による)。① ma bcos bzhag pa de nyid kyi (TB は kyis) le lag, ② gnyan pos bzung du med pa'i le lag, ③ rtsol ba dang bcas pa'i le lag, ④

nyams su blangs pas dngos grub 'byung ba'i le lag, ⑤ tshe gcig la sangs rgyas su ngo sprod pa'i le lag, ⑥ gol sa bcad pa rgya gad kyi le lag, ⑦ thugs kyi snying po'i le lag, ⑧ nyams su blang ba lag khrid kyi le lag. なお本書のイタリア語訳に, G. Orofino: *Contributo allo studio dell' insegnamento di Ma gCig Lab sGron*, Istituto Universitario Orientale, Napoli, 1987, pp.17-39 がある. SPC, pp.146-147 参照.

23) 章名は以下のとおりである (DDD と TB に異同無し). ① mtshan don gyi le lag, ② gnad bstan pa'i le lag, ③ dbang po dang sbyar ba'i nyams len bstan pa'i le lag, ④ gegs sel bstan pa'i le lag, ⑤ gol sa bstan pa'i le lag, ⑥ g-yel ba kha bsdus pa'i le lag, ⑦ na tsha byung na nyams su ji ltar blang ba'i le lag, ⑧ 'thas na bogs dbyung ba'i le lag. なお本書の英訳に SPC, pp.154-194 がある.

24) 章名は以下のとおりである (DDD と TB に異同無し). ① 'jug pa skyabs 'gro sems bskyed, ② byin rlabs lus sems phral ba, ③ sgom dran pa med cing yid la byar med pa, ④ nyams len phung po gzan la bskyur ba, ⑤ lta ba bdud kyi spyod yul du ma song ba, ⑥ lus dang sems kyi gnas skabs kyi bar chad zhi bar bya ba'i gdams ngag, ⑦ gcod kyi dam tshig bstan pa, ⑧ nyams su blangs pa'i 'bras bu bstan pa. 拙書 pp.18-19; SPC, p.148 参照.

25) STT, fol.13b5; CLL, p.1006; SPC, p.135, n.3 参照. なお『テプテルゲンポ』は, タバ・ハクトゥン等とともにマチクから法を授けられた直弟子としてヌプモ・ナムカーセル sNub mo Nam mkha' gsal (DTN, fol.3b6)/sNubs mo Nam mkha' gsal (BA, p.985) の名を挙げており, 『聴聞録』の dpal は gsal の誤記かとも思われる.

26) *Phung po gzan bskyur gyi rnam bshad gcod kyi don gsal byed*, TB, No.366-2646, fol.36a3-5; CCK, p.80; 拙稿 (a) p.441 参照.

27) 『遍満所知』では, *Brul tsho drug pa* とともにシチェ派の開祖タムパ・サンゲから伝えられた「男の断〔境説〕Pho gcod」を代表する書 (*La bzla skor gsum*) であるとされる. KEI, p.541 (Vol.om, fol.193b) 参照.

28) STT, fol.12a5, fols.13b5-6; CLL, p.1002, pp.1005-1006 参照.

29) *gCod yul nyon mongs zhi byed kyi bka' gter bla ma brgyud pa'i rnam thar byin rlabs gter mtsho*, Ngagyur Nyingmay Sungrab Series Vol.21, Gangtok, 1975, pp.77-78 (fols.39a5-39b1); Dan Martin: *Tibetan Histories*, London, 1997, pp.170-171, No.418 参照.

30) SPC, pp.138-144 参照.

〈キーワード〉 マチク・ラブキドゥンマ, 『本説カーツォム』, 『再説ヤンツォム』, 『再々説ニンツォム』, 『八章』, *bKa' tshoms*, *Yang tshoms*, *Nying tshoms*, *Le lag brgyad pa*, 河口慧海

(四天王寺大学教授)